

国際婦人デー3・5東京集会に寄せられたメッセージ

駐日ベネズエラ大使からのメッセージ

最前線で闘うのは女性——政治における男女均等を選挙プロセスの側面から

セイコウ・イシカワ（駐日ベネズエラ大使）

二〇二二年国際婦人デーに際し、活動家集団 思想運動と本郷文化フォーラムワーカーズスクール（HOWS）のみなさま、特に女性のみなさまに友愛を込めたご挨拶を申し上げます。

ベネズエラでは、女性の権利を擁護した憲法や法令、女性・性平等省などの国家機関、国家女性院、「バリオの母親計画（Misión Madres del Barrio）」などの社会計画を通じて女性の役割強化が図られてきました。これにより社会のさまざまな分野で女性の包摂とエンパワーメントが達成され、国民主役の参加型民主主義がさらに強化されてきました。

ベネズエラ国軍では、隊の指揮を執る人の三三％が女性です。また、全国選挙評議会（CNE）〔訳注：全国選管にあたる〕は、政治における男女均等を選挙プロセスの側面から達成すべく尽力しています。先般の地方統一選挙では、男女同数の候補者擁立が政党に求められました。女性らは、集団で参画することにより民衆セクターで社会的自由の場を作り、最大限に主権を行使しています。コムーナの最高機関であるコムーナ議会では、草の根の指導者の六七％を女性が占めています。

米国の帝国主義は、ベネズエラの一部野党と共謀してハイブリッド戦争を仕掛けました。ハイブリッド戦争はベネズエラ国民への犯罪的な封鎖の形をとって表出し、主に女性に影響が及んでいます。戦争で無実の犠牲者になるのはいつも女性や子どもたちです。しかし、抵抗する動きが興れば最前線で闘うのも、いつも女性たちです。

ベネズエラ女性は闘いに耐え抜いてきました。消費のパターンを変え、奮励努力し組織化して物を分配し、国の主権を攻撃しようとするような言説の流布を止めてきました。このように組織化することで、女性たちは労働力として、国を守る力として、抑圧された人の支援を進める際には——女性自身が搾取される性でありながら——連带的・人間的な力として自任しているのです。

社会が抱える大きな課題に取り組み、資本主義による貧困、不平等、搾取、環境破壊に終止符を打つにあたって女性たちが持つ強さを認めるすべての人びとに、今年の内閣に際し連帯のメッセージを送ります。

「実在、存在としての女性、本質としての女性は、社会主義革命のなかでのみ解放される。ほかに方法はない」ウゴ・チャベス（二〇一〇年）。

二〇二二年三月五日

（『思想運動』1075号 2022年4月1日号）